

平成28年度第1回

## 三 沢 市 総 合 教 育 会 議

日 時 平成29年1月18日（水曜日）

午前10時から

場 所 大会議室

### 次 第

1、 開 会

2、 市長挨拶

3、 議事

「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について

4、 閉会

---

#### 【配布資料】

「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について

平成 29 年 1 月 18 日

## 「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について

三沢市教育大綱は、将来、児童生徒が創造性や個性を生かしつつ、社会の中で自立して豊かな人生を送れるよう、次の 3 つの育成方針を以って構成されています。

### 〔 3 つの育成方針について 〕

#### 1 「確かな学力」の育成

自ら考え、様々な問題に積極的に対応し、解決する力など「確かな学力」を育てます。

#### 〔主な取組〕

(1) 授業の充実に向けて以下の 4 つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

##### ア よりよい授業にするための「教材研究」の深化

子供の実態把握や教材準備、発問や評価に応じた手立て等を準備して授業を行うこと。

##### イ 主体的な学びの力を育むための「問題解決的な学習」の工夫

変化の激しい社会をよりよく生きるために、問題解決能力を高めること。

##### ウ 学習内容の確実な定着のための「指導と評価」の一体化

取組状況や学習結果の評価を確実にを行い、その後の指導に生かすこと。

##### エ 確かな学力を育成するための「学習意欲」の向上と「学習習慣」の確立

諸調査結果からは、学力の向上に関して、学習意欲や学習習慣に課題があると指摘されていることから、意欲や習慣づくりを大切にすること。

(2) キャリア教育の充実に向けて以下の 3 つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

##### ア 校内推進体制の整備・充実

キャリア教育担当者を校内分掌に位置づけ、全体計画等を作成し全校体制で取り組むこと。

##### イ 体験活動の充実

家庭や地域社会の協力を得た体験活動(ゆめ実現事業、職場体験)の工夫を行うこと。

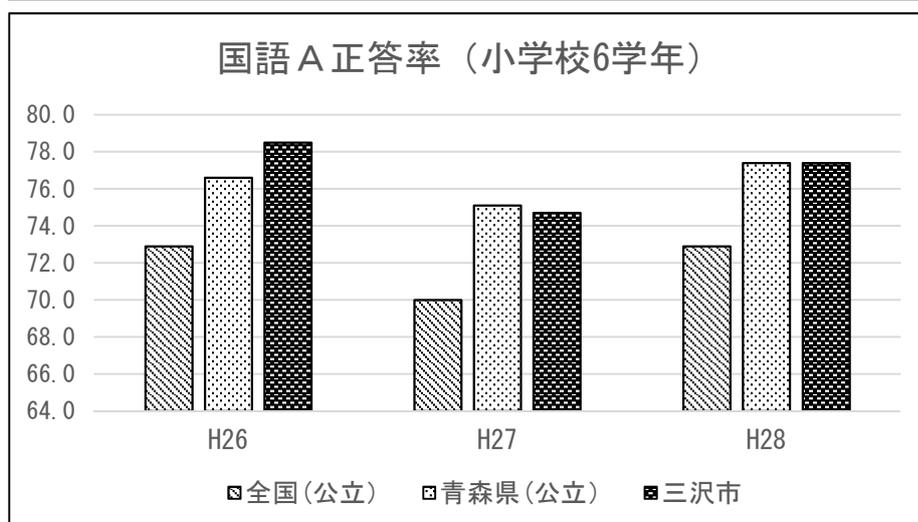
##### ウ 進路相談の充実

将来に対する夢や希望をもたせるとともに、不安や悩みを解消するよう進路相談等を行うこと。

# 〔現在の状況〕

全国の小6学年・中3学年対象調査より（文部科学省）

全国学力学習状況調査結果（H26～28）【小学校】〈正答率 %〉												
教科名	国語A			国語B			算数A			算数B		
	H26	H27	H28									
全国(公立)	72.9	70.0	72.9	59.5	65.4	57.8	78.1	75.2	77.6	59.2	45.0	47.2
青森県(公立)	76.6	75.1	77.4	60.5	69.8	60.2	81.3	78.5	80.4	60.8	47.4	47.9
三沢市	78.5	74.7	77.4	63.3	70.1	61.3	82.6	78.1	79.9	63.7	46.3	47.7
全国到達率	107.7	106.7	106.2	106.4	107.2	106.1	105.8	103.9	103.0	107.6	102.9	101.1



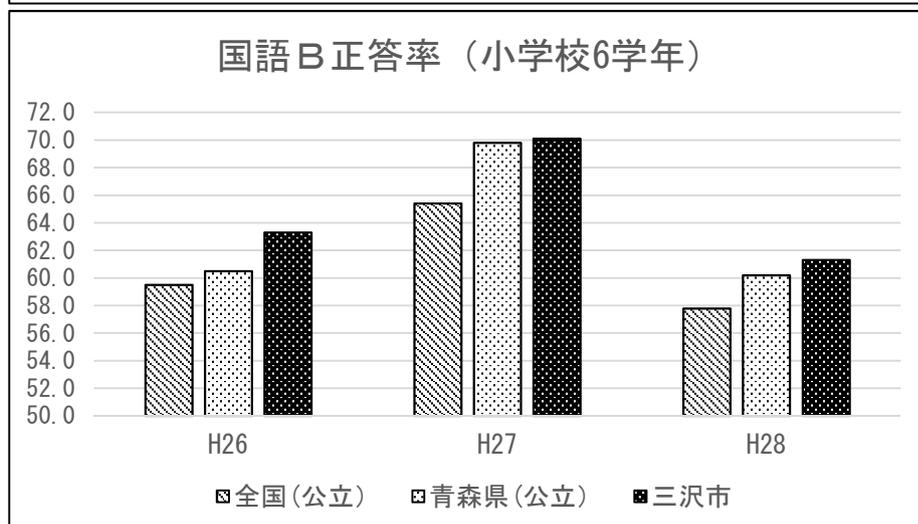
国語A（主として「知識」に関する問題）については、この3年間の正答率が全国を上回っている。

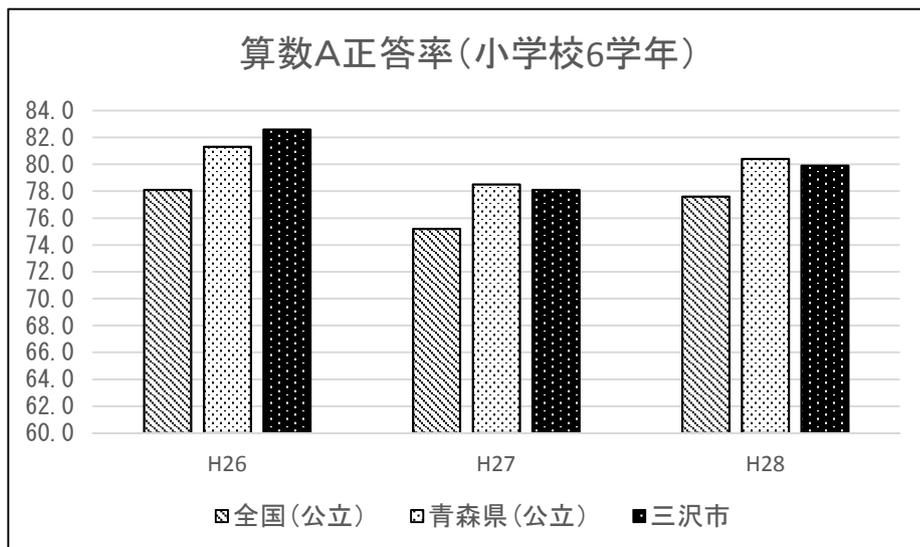
また、全国に対しての到達率は、106.2～107.7となっている。

県に対しては、平成26年度は、やや上回ったものの、ほぼ同程度の正答率である。

国語B（主として「活用」に関する問題）についても、Aと同様に、この3年間の正答率は、全国を上回っている。

全国に対する到達率は、106.1～107.2となっている。県に対しても、上回っている。

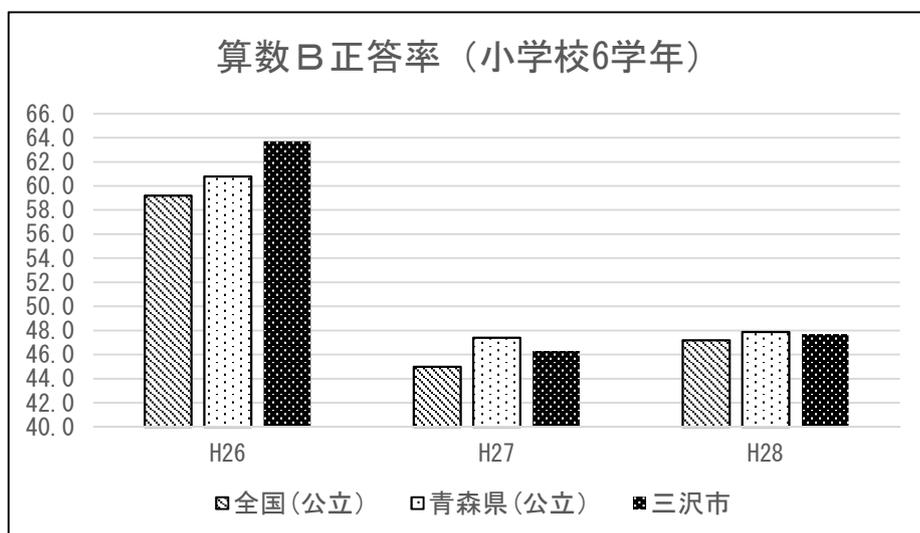




算数Aについては、この3年間の正答率が全国を上回っている。

また、全国に対しての到達率は、103.0～105.8となっている。

県に対しては、平成26年度は、やや上回ったものの、平成27年度と平成28年度はほぼ同程度の正答率である。



算数Bについては、この3年間の正答率が全国を上回っている。

また、全国に対しての到達率は、101.1～107.6となっている。

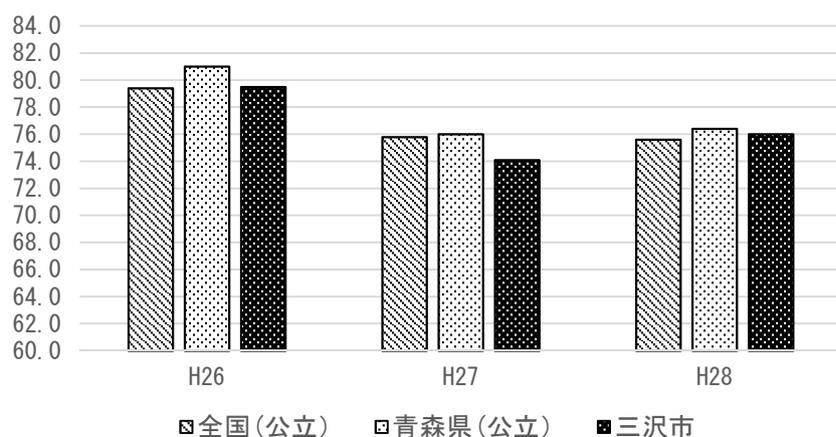
県に対しては、平成26年度は、上回ったものの、平成27年度と平成28年度は、やや下回る結果となった。

この算数B問題については、平成27年度及び平成28年度ともに、全国や青森県も同様であるが、正答率が50%に達していない状況にあり、大きな課題である。

全国学力学習状況調査結果(H26~28) 【中学校】 〈正答率 %〉

教科名	国語A			国語B			数学A			数学B		
	H26	H27	H28	H26	H27	H28	H26	H27	H28	H26	H27	H28
全国(公立)	79.4	75.8	75.6	51.0	65.8	66.5	67.4	64.4	62.2	57.7	41.6	44.1
青森県(公立)	81.0	76.0	76.4	52.0	64.8	65.5	69.3	64.4	64.0	60.7	39.8	44.7
三沢市	79.5	74.1	76.0	48.8	63.7	68.5	65.6	65.3	60.1	57.7	41.6	43.1
全国到達率	100.1	97.8	100.5	95.7	96.8	103.0	97.3	101.4	96.6	100.0	100.0	97.7

国語A 正答率 (中学校3学年)

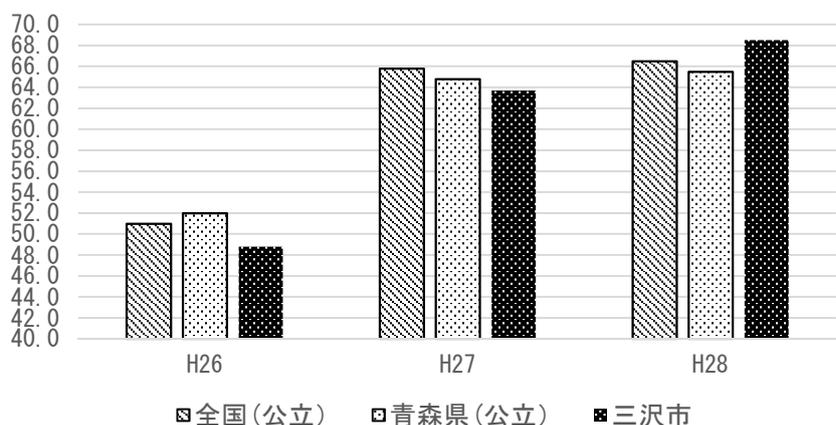


国語A については、平成26年度と平成28年度は、正答率が全国をわずかに上回ったが、平成27年度は、下回る結果となった。

また、全国に対しての到達率は、97.8～100.5となっている。

県に対しては、3年間とも下回っている。

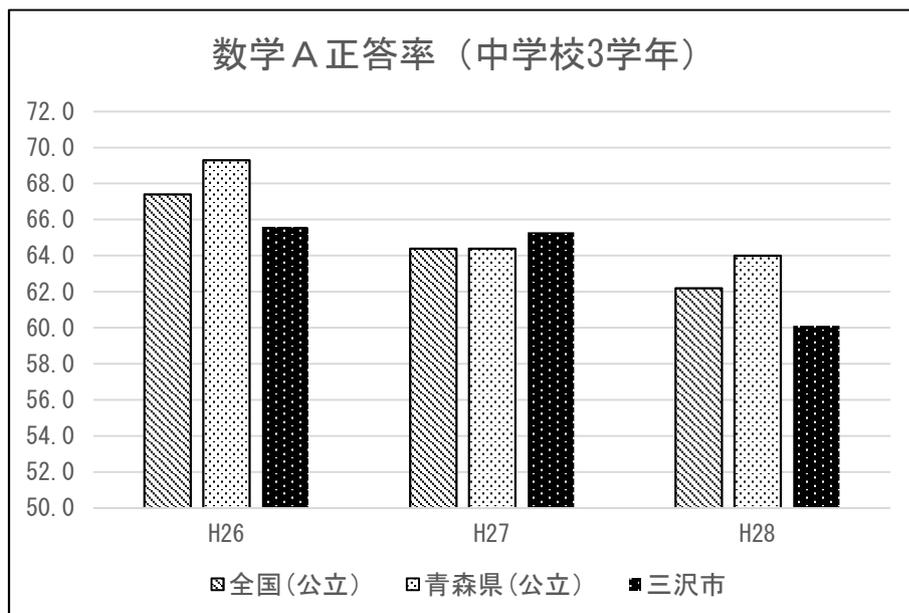
国語B 正答率 (中学校3学年)



国語Bについては、平成26年度と平成27年度は、大きく下回っていたが、平成28年度は、全国を上回っている。

全国に対する到達率は、95.7～103.0となり大きく変化している。

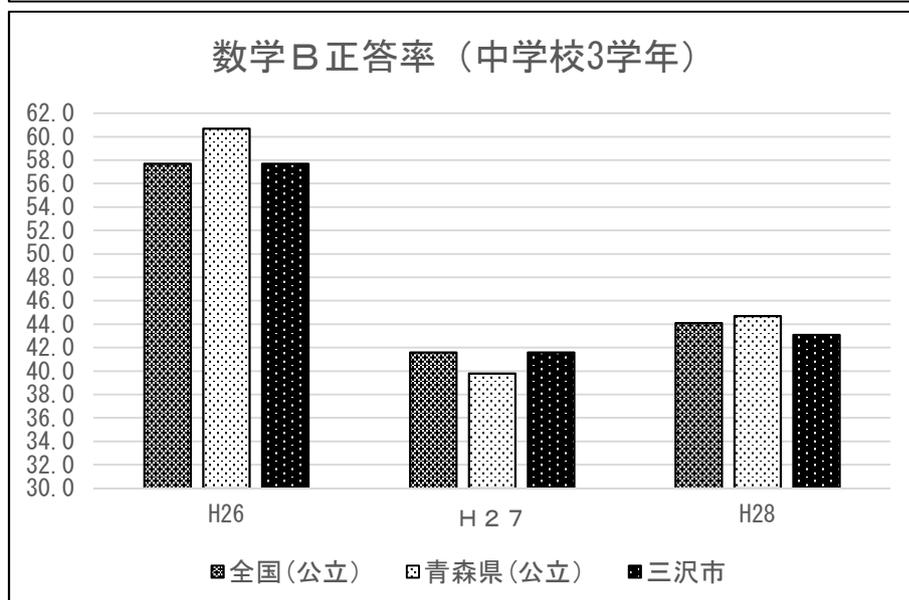
県に対しても、平成26年度と平成27年度は、下回っていたが、平成28年度は、大きく上回る結果となった。



数学Aについては、平成27年度の正答率が、全国を上回っているが、平成26年度と平成28年度は、やや下回る結果となった。

また、全国に対しての到達率は、96.6～101.4となっている。

県に対しても同様であり、平成26年度と平成28年度は、大きく下回る結果となった。



数学Bについては、平成26年度、平成27年度は、全国と同じ正答率であったが、平成28年度は下回る結果となった。

また、全国に対しての到達率は、97.7～100.0となっている。

県に対しては、平成27年度については、上回ったもの

の、平成26年度と平成28年度は、下回る結果となった。

小学校の算数Bと同様に、ここ2年間は「活用に関する問題」の正答率が50%を大幅に下回っている状況であり、大きな課題である。

## 2 「豊かな心」の育成

自分を大事にし、人を思いやる心や感動する心など「豊かな心」を育てます。

### 〔主な取組〕

(1) 生徒指導の充実に向けて以下の3つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

#### ア 協同指導体制の充実

実態に応じた目標と指導計画を策定し、取組を定期的に点検・改善し、全教職員による協同指導体制づくりを行うこと。

#### イ 自己有用感を高める授業や学年・学級経営の充実

一人一人の居場所や出番があり、共感的な人間関係づくりが行われるような、学年学級経営に努めること。

#### ウ 個に寄り添う教育相談の充実

日常的な触れ合いや教育相談などを通し、一人一人の内面を理解するとともに、悩みや不安などの解消に努めること。

(2) 道徳教育の充実に向けて以下の3つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

#### ア 道徳教育推進指導体制の整備・充実

校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心として、全教職員が協力して行うこと。

#### イ 道徳の時間の指導の工夫

魅力的な教材や実践事例集を積極的に活用し、多様な指導の工夫に努めること。

#### ウ 「私たちの道徳」の効果的活用と家庭や地域社会との連携

「私たちの道徳」（文科省）を活用するとともに、保護者の参加や地域への情報発信を行うこと。

(3) 特別活動の充実に向けて以下の3つを重点に掲げ、学校教育を推進して  
います。

**ア 望ましい集団と個性の伸長のための話し合い活動の充実**

話し合う活動を通して、望ましい人間関係づくりや自治的な活動を進めること。

**イ 児童生徒の手による生活づくりの推進**

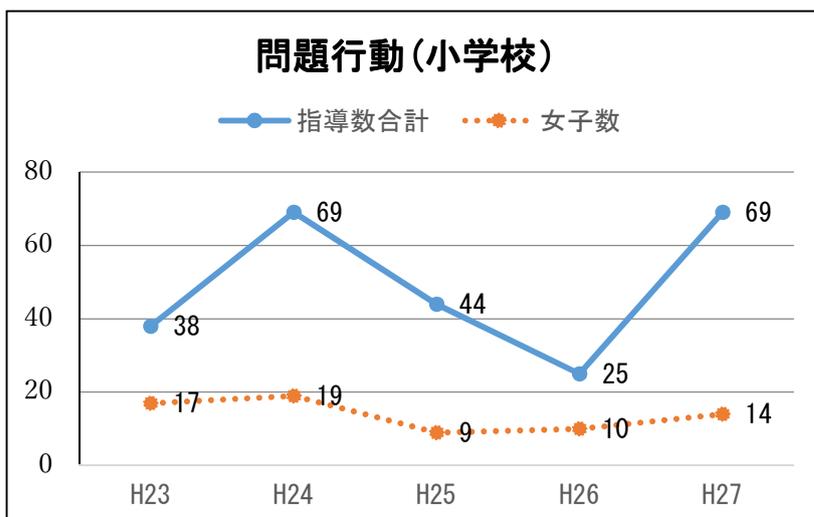
学校生活上の諸問題の解決に向けて、話し合って決めたことを実行し、守る活動を行うこと。

**ウ 各行事における感動・連帯感を高める指導の充実**

行事のねらいや意義を理解させ、目標をもたせて取り組ませ、感動があり、連帯感を育むよう各行事を充実させること。

**〔現在の状況〕**

生徒指導状況報告書より（5年間の推移）

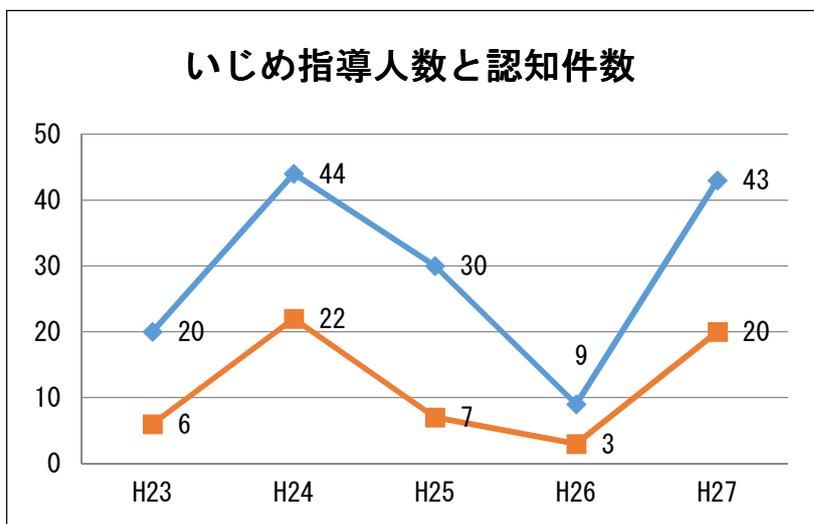


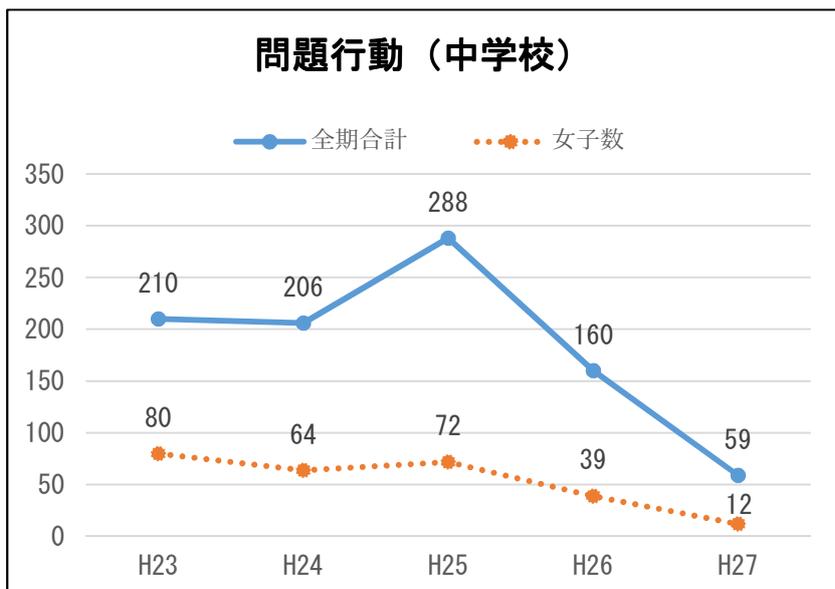
年間に問題行動で指導された児童数は、平成24年度に69人と増加し、その後平成26年度まで減少傾向にあったが平成27年度は、大きく増加し、69人となった。

平成27年度の内訳は、「いじめ」43人、「万引き」17人などである。この他の年度も同様に、いじめと万引きで指導された児童が大半を占めている。

いじめで指導された児童数と認知件数（＝被害児童数）については、平成24年度に44人、認知件数が22人と最大となったが、その後、平成26年度まで減少傾向であった。

平成27年度に大きく増加した理由は、文科省から積極的な認知と、解消を図るよう指導があったため。





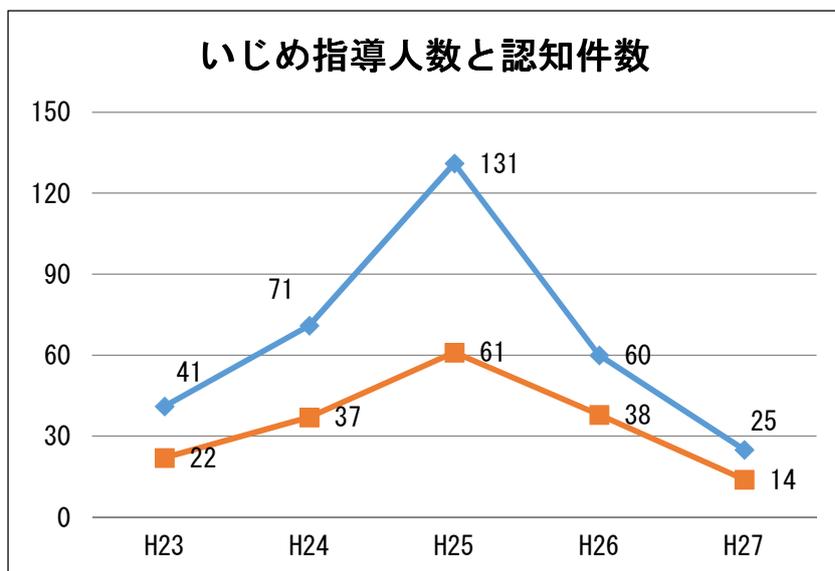
問題行動で指導された生徒数は、平成25年度に288人と大きく増加し、その後大幅に減少している。理由は、下の「いじめ」の指導人数を反映していることによるものであり、問題行動で最も多いものは、小学校と同様に「いじめ」となっている。

その他に指導される問題行動としては「万引き」や「生徒間暴力」、「器物損壊」などである。

いじめの減少に伴って問題行動で指導された生徒数は、平成27年度は、この5年間で最少の59人となった。

中学校のいじめの指導人数と認知件数は、平成25年131人をピークに大幅に減少した。

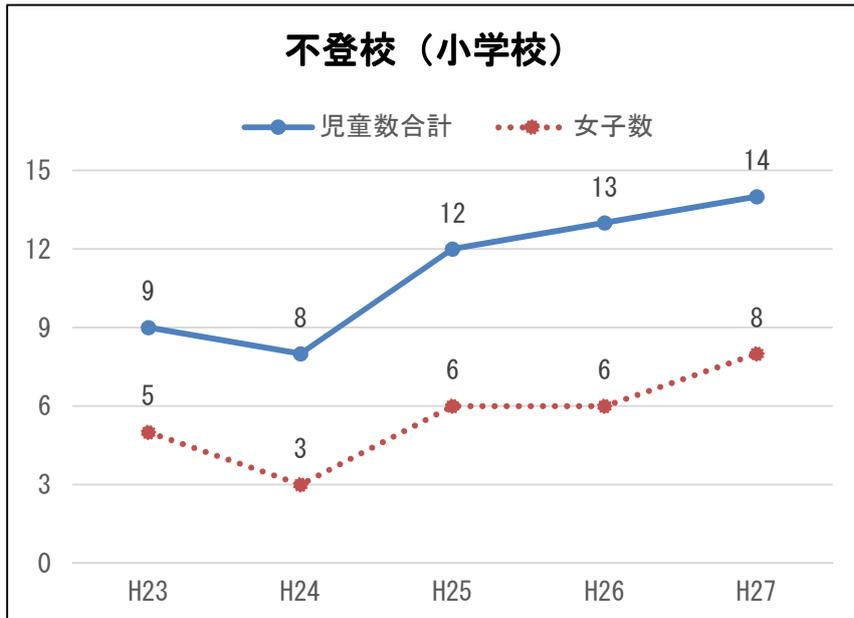
その理由は、平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、各学校では、「学校いじめ防止基本方針」を策定し、それに基づき対応したことや、社会全体での「いじめを許さない」意識の高まりなどが



あると思われる。

いじめの態様については、(1)冷やかす・からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。(2)仲間はずれ、集団による無視、(3)軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。が、主なものとなっている。

課題としては、組織的ないじめの認知と積極的ないじめの認知、情報の共有化、未然防止対応が挙げられる。



小学校の不登校（年間30日以上欠席）については、平成24年度から増加傾向にある。

また、登校しぶりや遅刻・早退を繰り返すなどの不登校傾向の児童も、やや増加傾向にある。

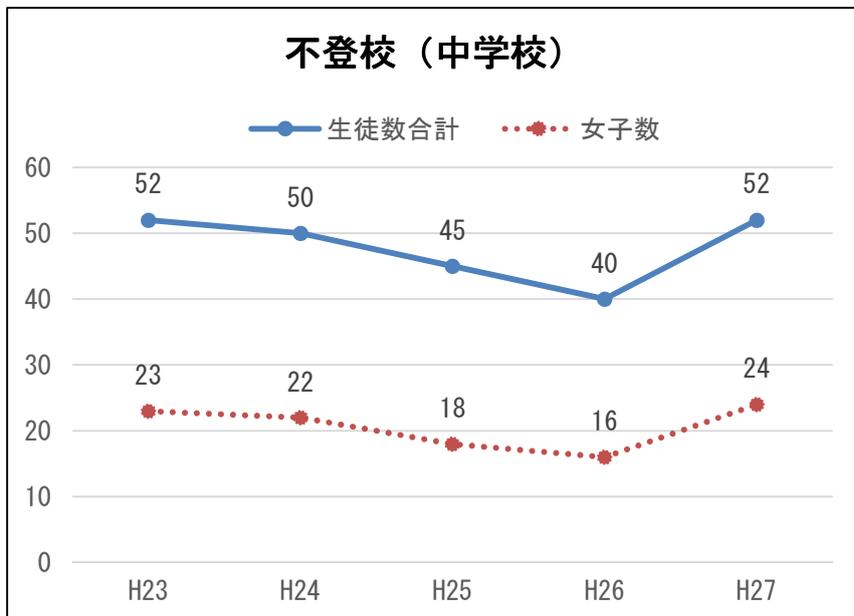
※平成26年度不登校児童の出現率は、

全国 0.39%

青森県 0.33%

三沢市 0.53%

三沢市が高い出現率となっている。



中学校の不登校については、平成23年度から減少傾向にあったが、平成27年度は、大きく増加に転じた。

小学校と同様に不登校傾向も含めると、さらに10名ほど増える状況にある。

※平成26年度不登校生徒出現率は、

全国 2.76%

青森県 2.62%

三沢市 3.15%

となり、小学校と同様に高い出現率となっている。

不登校については、小学校の増加傾向や高い出現率となっている状況から、重要な課題であると捉えている。

### 3 「健康で活力のある体」の育成

たくましく生きるため、「健康で活力のある体」を育てます。

#### 〔主な取組〕

(1) 体育・健康教育の充実に向けて以下の4つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

#### ア 主体的に体力を高める指導の充実

教育活動全体を通じた運動（遊び）やスポーツに親しむ機会の設定及び教科体育を中心とした体力向上に努めること。

#### イ 保健・安全指導の充実

健康課題（目・歯、肥満など）を明確にし、健康な生活を実践できることや、災害発生等に対応した危険回避や安全な行動ができる指導を行うこと。

#### ウ 食に関する指導の充実

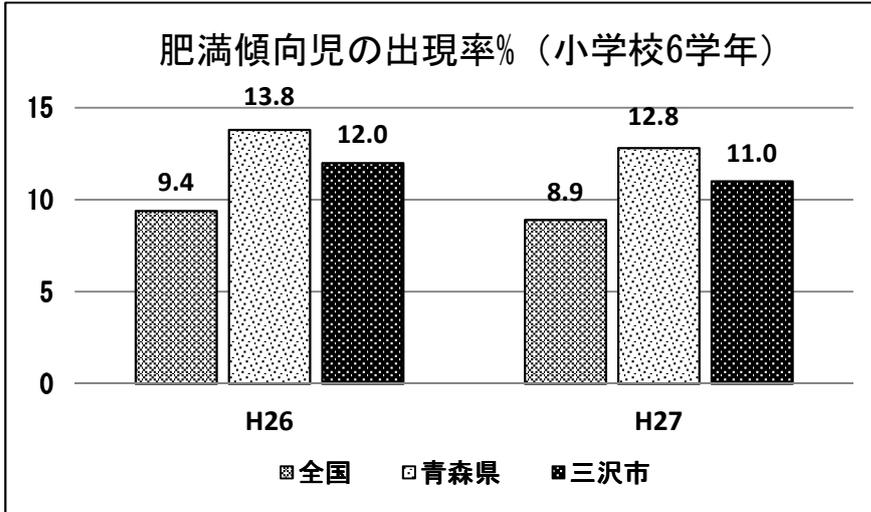
給食や学級指導等の時間において、食に関する指導に努め、日常の生活に生かすことができるようにすること。

#### エ 家庭や地域社会との連携

健康・安全のために、家庭や地域に積極的な情報発信に努め、町内会と合同の避難訓練の実施など関係機関等と連携した組織的な活動を進めること。

〔現在の状況〕

学校保健統計調査報告より（文部科学省生涯学習政策局）

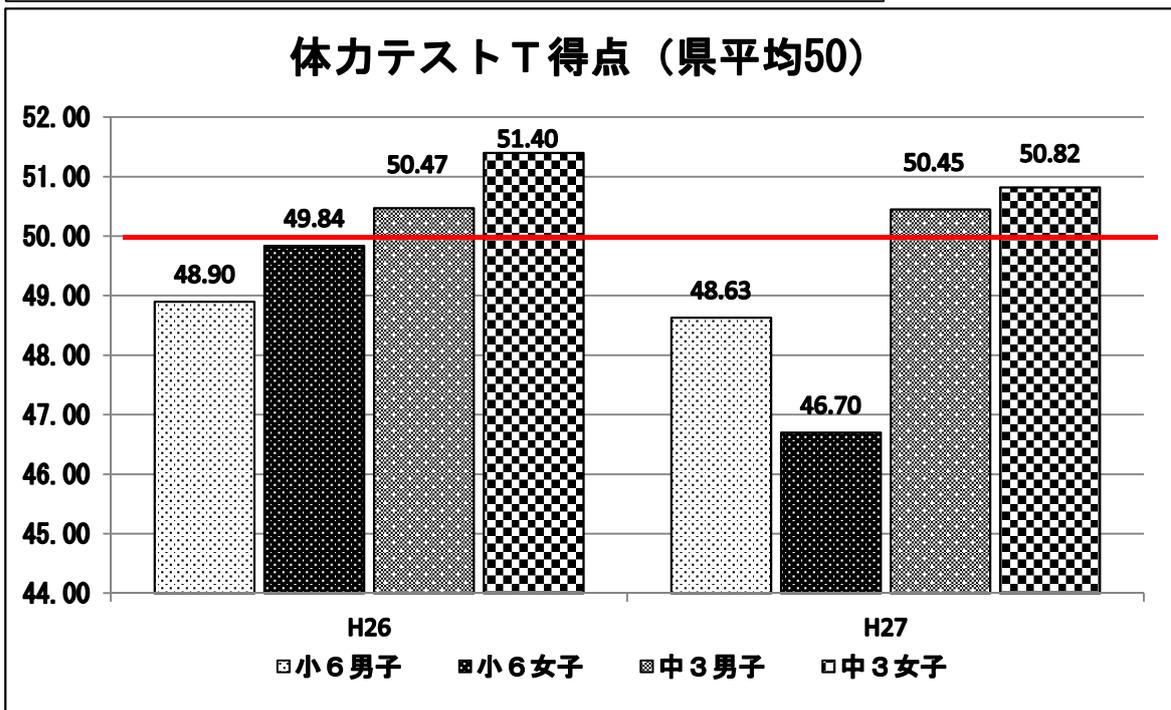
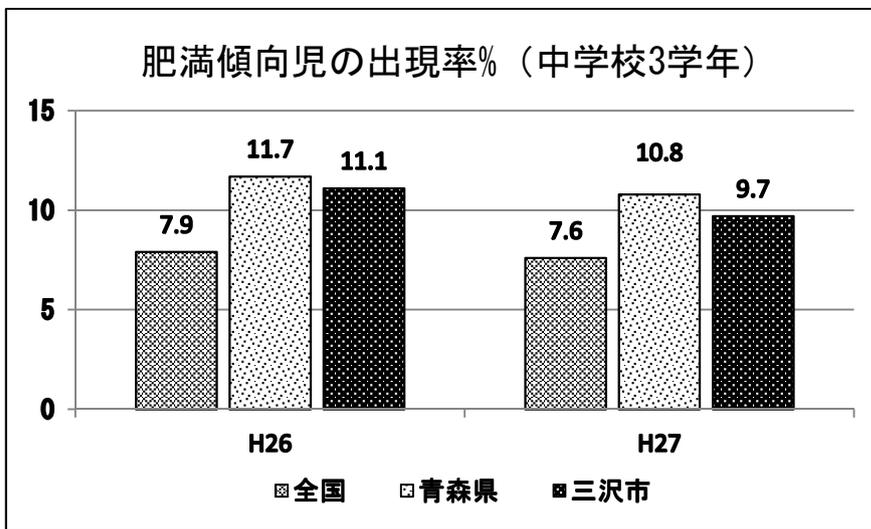


三沢市の小学校6学年の肥満傾向出現率は、全国に比べて、平成26年度と平成27年度は2%以上高くなっている。

県との比較では、1%以上低くなっている。

中学校3学年については、ほぼ同様の傾向であり、全国を2~3%ほど、肥満傾向児の出現率が高くなっている。

※肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重を求め、肥満度が20%以上の者。  
 肥満度 = [実測体重(kg) - 身長別標準体重(kg)] / 身長別標準体重(kg) × 100 (%)



体力テストT得点（8種目を得点化し、50が平均となるように処理した数値）については、小学校6学年男女ともに、平成26年度、平成27年度において、県平均を下回っている。

特に、平成27年度の小学校6学年女子は、3.3ポイントも低くなっている。

種目別においては、男女ともに「50m走」、「反復横とび」の得点が低くなっている。平成27年度においては、県平均を上回った種目はなかった。

中学校3学年については、男女ともに、平成26年度、平成27年度において県平均を上回っている。

特に男女とも「ボール投げ」や「握力」が、高い得点となっている。中学校での運動部活動等の成果が考えられる。

※調査種目：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（ハンドボール投げ）

※  $T \text{ 得点} = 50 + 10 \times \frac{\text{調査結果} - \text{平均値}}{\text{標準偏差}}$

## ○今後の展開について

三沢市教育振興基本計画に基づき、安全・安心な教育環境のもと、グローバル化の進展など、変化の激しい社会を生き抜く力の養成を図り、夢を実現する人づくりを目指します。

このために、

- 1 夢の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育
- 2 生き抜く力を育む、キャリア教育の推進
- 3 英語による、コミュニケーション教育の充実
- 4 切れ目のない、学びのセーフティネットの充実
- 5 学校・家庭・地域発、コミュニティ組織の構築・活用
- 6 まもる・伝える・育む、ふるさと文化の保存・活用
- 7 創造性に富み、地域発信ができる文化活動
- 8 元気・感動を生み出す、健やかなスポーツ活動

8つの教育成果の目標に向けた取組を推進します